

概観

【政治・社会】

総選挙（7月）が実施され、ボリソフ新内閣（新興右派 GERB による単独少数与党）が発足した。新内閣は、より小さな政府を通じた財政再建、司法改革・汚職対策への取り組み、及び EU 諸国の信頼回復（EU 資金凍結解除）等を目指す。国政の場に初登場した新興政党による政権掌握によって、国民議会議員及び閣僚メンバーの顔ぶれは一新した。

【経済】

新政府は金融危機対策として、①公共事業費の見直しによる財政黒字の維持、②省庁再編による政府のスリム化、③VAT 還付の迅速化、④開発銀行の資本増強（2.5億レヴァ）、⑤政府の社会保障費負担率の軽減、⑥エネルギープロジェクトの大幅見直し、⑦投資庁の権限強化及びワンストップ化の実施等を発表。

この月報はブルガリア各種メディアの報道ぶり等を取りまとめたものであり、在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

議会会派は EPP 所属)

1 議席

政治・社会

1. 内政

◆欧州議会議員選挙（ブルガリア結果）（6月7日）

▶ブルガリアに割り当てられた17議席（1議席減）の選挙結果は以下のとおり。

第1党：GERB（「ブルガリアの欧州に於ける発展のための市民」、欧州議会会派はEPP（欧州人民党）所属・右派） 5議席

第2党：「ブルガリアのための連合」（左派政党連合、欧州議会会派 S&D（社会民主進歩同盟（当時PSE）所属、左派） 4議席

第3党：MRF（「権利と自由のための運動」トルコ系少数派、欧州議会会派はALDE（欧州自由民主同盟、中道）所属） 3議席

第4党：Ataka（野党、ナショナリスト、欧州議会会派無所属） 2議席

第5党：NMSP（「安定と発展のための国民運動」、中道、欧州議会会派はALDE所属） 2議席

第6党：Blue Coalition（UDF-DSB 野党右派連合、欧州

▶GERB が前回と同じ5議席を保った他、Blue Coalition が初議席（1）を獲得等、右派が優勢となった。また、NMSP がクネヴァ欧州委員の人気に助けられて2議席と健闘した。

▶カルフィン副首相兼外相（BSP、2007年及び2009年（大統領訪日随行）に訪日）が当選、欧州議員に転出することが決定した。

◆総選挙（7月5日）

▶4年間の任期満了に伴う国民議会選挙が実施され、60%という高い投票率の中、GERB が6月の欧州議会選挙時から飛躍的に得票率を伸ばし、第2党に転落した与党左派の「ブルガリアのための連合」に大差をつけて、第1党となった。ただし単独での過半数議席獲得にはわずかに至らなかった。

▶「安定と繁栄のための国民運動（NMSP）」（連立与党中道）は最低得票率4%を得られず、国政の場でのプレゼンスを失った。

▶各党の獲得議席は以下のとおり。(定数240)

第1党: GERB (中道) 右派	116議席
第2党: BSP (左派)	40議席
第3党: MRF (トルコ系)	38議席
第4党: アタッカ (ナショナリスト)	21議席
第5党: Blue Coalition (野党右派連合)	15議席
第6党: 「秩序・法及び正義」(右派)	10議席

◆第41回国民議会招集 (7月14日)

▶第41回国民議会が招集され、ツェツカ・ツァチェヴァ (Ms.Tsetska TSACHEVA、GERB) が議長に選出 (賛成227、反対0、棄権3)、同人はブルガリア初の女性国民議会議長となった。また、各党から各一名の副議長が選出された。

◆ボリソフ新内閣の発足

▶GERB は単独過半数に至らなかったため旧与党以外の各党の閣外協力に基づく少数与党単独政権の道を模索、その結果アタッカ (ナショナリスト、21議席) と閣外協力を約するメモランダムが交わされた。

▶27日、国民議会はボリソフ首相候補、新内閣組織 (省庁の改編: 緊急事態省、国家行政省、欧州担当省、EU 資金担当大臣 (無任所) 等が廃止され、一方で体育・スポーツ省、ブルガリア人移住者問題等を担当する無任所大臣が新設された)、閣僚候補リストを全て可決、ボリソフ新内閣が発足した。採決に際してはアタッカのみならず、BC 及び「秩序・法及び正義」も賛成票を投じた。

▶閣僚は以下のとおり。

1. 首相: ボイコ・ボリソフ (前ソフィア市長)
2. 副首相兼内務大臣: ツヴェタン・ツヴェタノフ (GERB 党首)
3. 副首相兼財務大臣: シメオン・デヤンコフ (前世銀エコノミスト)
4. 地域開発・公共事業大臣: ロセン・プレヴネリエフ (企業家 (建設))
5. 労働・社会政策大臣: トチュ・ムラデノフ (ヴラツァ市長)
6. 国防大臣: ニコライ・ムラデノフ (前欧州議員)

7. 外務大臣: ルミヤナ・ジェレヴァ (前欧州議員)
8. 法務大臣: マルガリータ・ポポヴァ (検察官)
9. 教育・青少年・科学大臣: ヨルダンカ・ファンダコヴァ (前ソフィア副市長)
10. 保健大臣: ボジダル・ナネフ (医師会会長)
11. 文化大臣: ベジュディ・ラシドフ (彫刻家)
12. 環境・水大臣: ノナ・カラジョヴァ (環境コンサルタント)
13. 農業・食糧大臣: ミロスラフ・ナイデノフ (獣医)
14. 運輸・情報技術・通信大臣: アレクサンダル・ツヴェトコフ (前ソフィア市副市長)
15. 経済・エネルギー・観光大臣: トライチョ・トライコフ (電気供給会社顧問、エコノミスト)
16. 体育・スポーツ大臣: スヴィレン・ネイコフ (北京オリンピック金メダリストのルミヤナ・ネイコヴァ (ボート選手) の夫君兼コーチ)
17. 無任所大臣: ボジダル・ディミトロフ (国立博物館館長)

◆ボリソフ新内閣の重点政策事項

▶ボリソフ首相は就任演説において以下の重点的政策分野を示した。

1. 国民の所得向上、ブルガリア経済の現代化
(財政支出の引き締め、雇用の創出、国家財政の濫用防止、産業育成、投資の誘致、農業、観光等の伝統的な産業の復興、運輸インフラ建設、新技術の導入)
2. 法秩序の維持、犯罪対策、汚職の減少
(長期的に取り組まなければならない問題との認識)
3. 司法制度の改革
(欧州委員会の勧告に基づく改革の推進)
4. EU パートナー国の信頼回復と EU 資金凍結解除
(経済危機からの脱却には EU 資金の活用が不可欠との認識)
5. ブルガリア社会保障制度の改善
(年金制度・健康保険制度の改善、体育の強化)
6. 人材開発、教育の改善
(現代的欧州的教育、科学分野での研究の推進、ブルガリア文化の復興、文化遺跡の保存と知識の普及)
7. 地域の安定要因、EU の名誉あるメンバーとして行動
(EU、NATO への近隣国の加盟の支持・促進を通

じて、バルカン、黒海地域の安定に貢献)

2. 外政

◆在コソボ連絡事務所を大使館に格上げ

▶閣僚評議会は、在コソボ連絡事務所の大使館への格上げを決定した。今回の決定は、2008年3月のブルガリアのコソボ国家承認の際、外交関係を大使館レベルで樹立することを決定していたことに起因する。今次決定は、両国の関係及び協力の発展だけでなく、バルカン地域としての安定及び地域発展に資すると政府筋は述べた。

◆ 欧州委員会：ブルガリア司法改革等の進捗状況に関する報告書発表（7月22日）

▶同報告書では、08年7月報告書での勧告に対し、一定の手段が講じられ、一定の成果がもたら

経済

1. マクロ経済

◆政府対外債務管理戦略を採択

現在の政府対外債務48.8億ユーロ（対GDP比13%）を2009年～2011年の間に対GDP比で25%までの増加を認める対外債務管理戦略を政府は採択した。これまで政府対外債務は削減されつつあったが、今後は一転して増加していくことになる。その理由についてはなんら言及されていないものの、政府は海外市場における国債発行も視野に入れている（BSP政権当時）。

◆ECレポート

欧州委員会がブルガリア経済の見通しについてレポートを取りまとめた。ブルガリアはリセッションに入っており、今後は緊縮財政をとりつつ多額の経常収支赤字を是正すべきと述べている。また公共支出の削減や行政組織の効率化、組織改革も必要としている。政府は2009年の財政収支は対GDP比3%のプラスを見込んでいるが、レポートでは1.5%のマイナスとし、対外債務も09年、10年それぞれで16%、17%と予測し

されたが、この変化を持続させるために、汚職や組織犯罪の捜査・訴追・裁判について、より具体的な結果が必要、大きな司法改革は、まだ始まっておらず、これには、長期的かつ明確な政治的公約が求められる、と指摘している。

▶勧告事項として、犯罪・汚職対策に関しては「組織犯罪・汚職対策の統合的戦略の発展、組織犯罪に関する特別の共同捜査チームの確立、高官の汚職や組織犯罪につき、適切な機能と政治的独立性をもって訴追・裁判できる特別な組織の設立等」の11項目を、司法の効率性に関し「刑事訴訟法の改正を通じて刑事手続の簡潔化の考慮、現存の刑事訴訟法下における実務の改善の実施等」の10項目を挙げている。

▶なお、欧州委員会は、更なる進展の再評価を2010年夏に実施する。

ている。

◆世銀レポート

世銀が発表したレポートによると、ブルガリア、ラトビア、ベラルーシは短期債務をカバーできるだけの外貨準備高を保有しておらず、不足分を財政支出ないしは国際機関からの支援によって埋めなければならないとしている。ラトビアの債務は対外貨準備高比250%、ベラルーシ290%、ブルガリア100%となっているが、中でもラトビアとブルガリアは自国通貨をユーロとペッグしており、中銀の取れる金融政策に制限があるため、最も脆弱と見られている。

◆経常収支

2009年4月末までの経常収支赤字は10.69億ユーロ（対GDP比5%）で、昨年同期の27.7億ユーロ（対GDP比8%）よりも減少した。経常収支赤字の多くを占める貿易赤字が減ったことによるもので、貿易赤字は16.03億ユーロ（対GDP比4.7%）であった。

◆5月のインフレ率が3.9%に

5月のインフレ率は3.9%と統計局が発表した。ブルガリアは景気後退局面に入っており、賃金の上昇や、国内消費、製造・投資が抑えられたことによるものと専門家はコメントしている。09年第①四半期のGDP成長率はマイナス3.5%となっており、政府と中銀は今年のインフレ率を2.5%以下と予測している。

◆2009年予算

デヤンコフ新財務大臣は予算の現状は予想していたものより酷いものだと述べた。金融危機の影響により税収が減少し、現時点で当初の想定より約16%少なくなっている。このままでは25億レヴァの財政収支赤字となるため、デヤンコフ大臣は公共事業の見直しや他の歳入を見つけることによって何とか埋めたい考えである。

◆2009年経済成長率

ムーディーズは本年のブルガリアの経済成長をマイナス5%と予測しているが、デヤンコフ新財務大臣はマイナス6.3%になると述べている。またムーディーズは今年の財政収支についてはマイナス2.7%となると予測している。これはEU加盟国中でも低い数字であるが、今後数年間は民間部門での対外債務が膨らむであろうと予測している。

◆不良債権額の伸びが過去最高に

6月に入り不良債権が前月より5.12億レヴァ増加した。2009年に入り毎月2億ユーロ前後で伸びてきた不良債権だが、6月は2倍以上の伸びとなり過去最高を記録することとなった。しかし中銀は全体から見れば5%程度の額であり、問題となるようなものではないと述べている。なお主要な内訳はビジネスローンが約3億レヴァ、住宅ローンが1億レヴァ、消費者金融が0.86億レヴァとなっている。

◆5月末時点の対外債務は366億ユーロ

中銀の発表によれば5月末時点の対外債務は3

66億ユーロ（対GDP比107.9%）となった。民間部門の債務は16.4%増加し326億ユーロとなり、政府部門の債務は1.6%増加し40億ユーロとなっている。またこのうち長期債務は232.79億ユーロであり、短期債務は132.88億ユーロ（対GDP比38.9%）となっている。専門家は対外債務や経常収支赤字が多額であるため、ブルガリアはIMF、EUからの金融支援が必要であると警鐘を鳴らしている。

◆6月の失業率は7.29%

6月の失業率は7.29%となった（1年前は5.97%、前月は7.08%であった）。登録失業者数は約27万人で、5月より8千人増加した。

◆外国投資が半減に

中銀の発表によると、5月末時点での外国投資は前年比53.6%となった。総額約11.34億ユーロとなった外国投資は、特に不動産分野の落ち込みが大きく2.275億ユーロ（前年同期は5.779億ユーロ）にとどまっている。最大の投資国はオランダ（17.8%）で、ルクセンブルク（11.7%）、オーストリア（11.4%）と続いている。

2. その他

◆7つの工業団地を建設

政府は新たに7つの工業団地（ヴァルナ、プレーベン、スヴィレングラッド、プロヴディフ、カルロヴォ、ヴィディン、ルセ）を建設すると発表した。総工費は約2.7億ユーロ、面積は各工業団地によって違うが15万平米から53.5万平米となる模様で、ハイテク産業を誘致したい考えである。

◆RESは総電力の20%以下にすべき

パパジャン・ブルガリア電力公社 CEO は黒海沿岸で開催されたセミナーの場で、風力・太陽光発電所の建設ラッシュは、電力価格の高騰を招くため、政府によって総発電の20%以下に管理され

るべきであると述べた。したがって新政府及び議会は欧州委員会からの義務を履行すると同時にその管理もすべきであり、現在約1万MWの風力発電所建設が予定されているが、これを1500MWを上限とするべきと述べた。

◆エネルギープロジェクトを大幅見直し

新政府はこれまで政治主導で進められてきたベーレネ原子力発電所プロジェクトやブルガス・アレキサンドロポリス石油パイプラインプロジェクトを経済的な観点からその是非を見直すと発表した。ベーレネ原子力発電所は1000MWの原子炉2基の建設を予定し、総額約40億ユーロにのぼるもの。前政権によってすでに7800万ユーロの建材が発注され、9700万ユーロが古い機材の解体用

に使用されるなど、これまで約4億ユーロが支出されている。またロシアから融資を受けることになっていたが、本協議については、現在すべて止まっており、8月までに今後の対応等について新政府内で決定が行われる見込み。

◆金融危機対策

新政府は金融危機対策として以下の方針を発表した。①公共事業費の見直しによる財政黒字の維持、②省庁再編による政府のスリム化、③VAT還付の迅速化、④開発銀行の資本増強（2.5億レヴァ）、⑤政府の社会保障費負担率の軽減、⑥エネルギープロジェクトの大幅見直し、⑦投資庁の権限強化及びワンストップ化の実施等。

=====

ブルガリア内政・外交の動き

在ブルガリア大使館

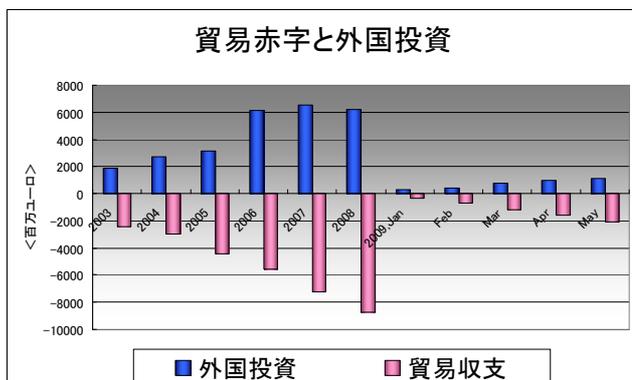
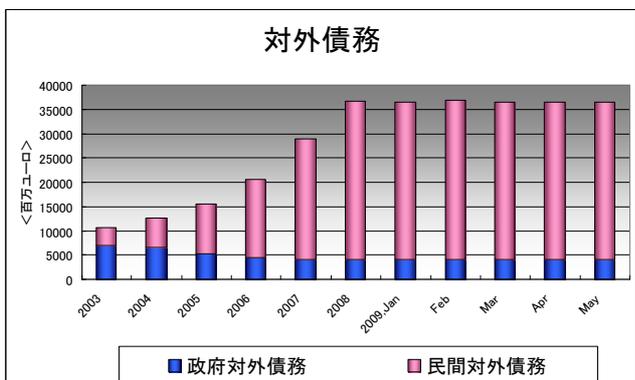
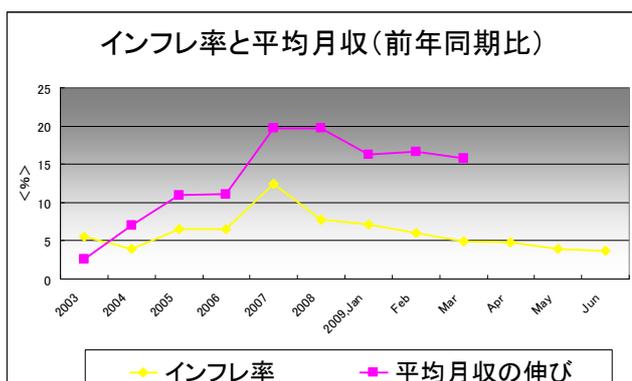
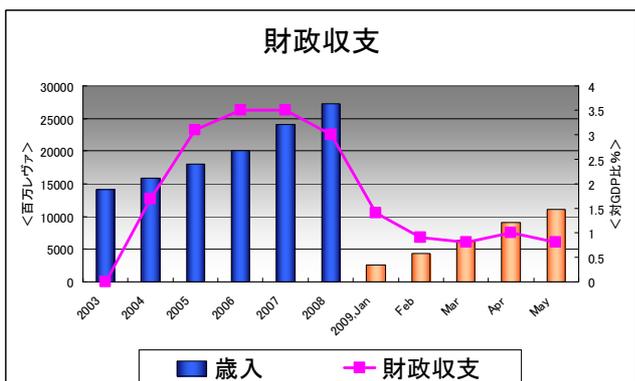
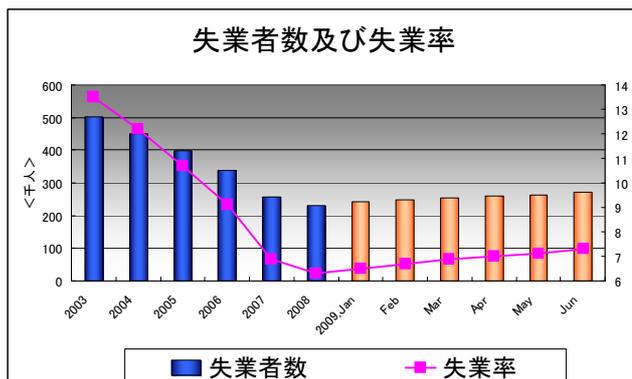
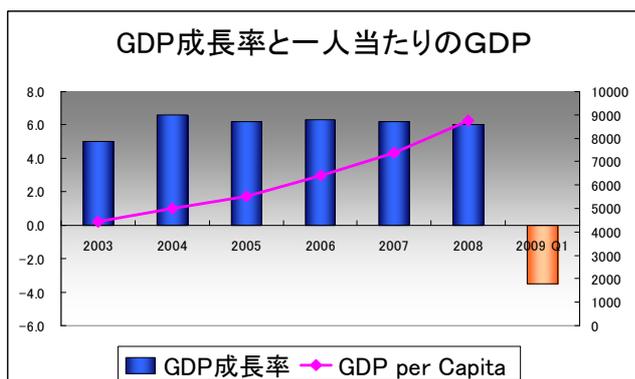
(6月)

1 (月)	●ブルガリア国内で初の豚インフルエンザの症例が見つかる
4 (木)	☆パルヴァノフ大統領：「文化の多様性と観光振興」をテーマにした第8回南東欧首脳会議へ参加。(於モンテネグロ)
5 (金)	☆パルヴァノフ大統領：南東欧協力プロセスの首脳会合(於モルドバ)
7 (日)	●欧州議会議員選挙
8 (月)	☆フラティニ伊外相：ブルガリア訪問。
15 (月)	☆カルフィン外相：EU外相会合出席(ルクセンブルグ)。
18 (木)	☆スタニシェフ首相：欧州理事会出席(ブリュッセル)。欧州社会党の党首会合にも参加。ブルガリアはエネルギー欧州委員会委員長のポストを希望する旨記者団に対し述べた。(～19日)
19 (金)	☆パルヴァノフ大統領：第16回中欧諸国首脳会合参加(セルビア)出席。
22 (月)	☆アブドラ・ビン・ザーイド・アール・ナヒヤーン・アラブ首長国連邦外相：ブルガリア訪問。

(7月)

1 (水)	●アルアリド・ビン・タラール・アール・サウド・サウジアラビア王子ブルガリア訪問。
5 (日)	●ブルガリア総選挙実施
9 (木)	☆在コソボ・ブルガリア連絡事務所、大使館に格上げ。
14 (火)	●第41回国民議会招集
22 (水)	●欧州委員会：司法改革等の進捗状況に関する報告書を発表。
27 (月)	●ボリスフ新内閣発足
29 (水)	●琴欧州、スタラ・プラニナ勲一等を受賞

ブルガリア経済指標（2009年7月）



出所：統計局、中銀、ソフィア証券取引所

2009年7月ブルガリア経済指標

<GDP成長率と一人当たりのGDP>

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009 Q1
GDP成長率 (%)	5.0	6.6	6.2	6.3	6.2	6.0	-3.5
GDP per Capita (euro)	4426	4989	5529	6411	7379	8753	

<失業者数及び失業率>

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009,Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun
失業者数 (千人)	501	451	397	338	256	232	241	248	255	261	262	270
失業率 (%)	13.5	12.2	10.7	9.1	6.9	6.3	6.5	6.7	6.9	7.0	7.1	7.3

<財政収支>

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009,Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun
歳入 (million BGN)	14070	15855	17991	20023	24063	27317	2616	4267	6400	9101	11044	
財政収支 (million BGN)	0	1.7	3.1	3.5	3.5	3	1.4	0.9	0.8	1.0	0.8	

<インフレ率と平均月収>

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009,Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun
インフレ率 (前年同期比 : %)	5.6	4	6.5	6.5	12.5	7.8	7.1	6	4.9	4.8	3.9	3.7
平均月収の伸び (前年同期比 : %)	2.6	7	11	11.1	19.7	19.7	16.3	16.7	15.8			

<対外債務>

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009,Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun
政府対外債務 (million euro)	7074	6585	5198	4555	4092	4104	4047	4016	3981	4045		
民間対外債務 (million euro)	3592	6073	10309	16074	24763	32625	32398	32803	32430	32510		

<貿易赤字と外国投資>

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009,Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun
外国投資 (million euro)	1851	2736	3152	6158	6517	6163	296	437	750	955		
貿易収支 (million euro)	-2426	-2954	-4410	-5562	-7245	-8758	-343	-693	-1139	-1604		